

謎の一枚

東 貴 之

この写真は『調査報告』Ⅰの巻末で紹介した春山石鍋製造場で、一緒に写っている人物は音丸順太郎氏です。春山石鍋製造場は「春山第一洞」と「春山第二洞」の2箇所が報告され、写真は規模の違いから前者とされています。音丸氏は雪浦小学校の校長先生を努められた方で、長崎考古学会による春山石鍋製造場の踏査に尽力されました。写真は踏査時のもので、撮影者は当時の踏査メンバーからいって、おそらく高谷重雄氏と思われます（註1）。このカットは『考古學雑誌』と『史蹟名勝天然記念物』の二機関の研究報告で使用されています。後者に掲載された写真は、1ページ丸ごと使用されており、製作所跡の状況がわかる写真として大変貴重な1枚と言えるでしょう。問題はこの写真が春山石鍋製造場のどの箇所かと言うことでした。私はこの問題に関して長い間悩みました。“一体何処なのだろう”，もしかしたら崩壊しているのではとも考え直した時もありました。しかし、ふとしたことから、問題は解決の方向へと進みました。

去る2009年3月22日に長崎石鍋記録会員の石橋忠治氏から「この写真は春山第一洞(A-1)の南壁面の上部の可能性が高い」と指摘を受けました。正直行って驚きを隠せませんでした。また、衝撃が走りました。そこはこれまでの踏査で何回かは訪れたことのある場所でした。最近では2009年2月7日に石橋氏と踏査をしました。探しても探しきれなかった場所だったので、気づいた時の感動は今でも忘れることはできません。春山第一洞は幅約1mのクレバス状をした製作所跡で、山の斜面に露頭した滑石を掘削しています。露頭の岩の傾斜は大体で45から50°でしょうか。この上部で写真は撮影されました。音丸氏は傾斜がきつい場所で、へばりつくように写ったと思われますが、その表情はどちらかと言えば涼しげな感じです。ここは結構危ない場所なのですが…。

春山第一洞は今もその姿をほとんど変えることなく、隣の春山第二洞とともに静かに佇んでいます。現在も私はこの場所へ行きますが、当時の踏査は大変だったと思います。当時の報告に「荊棘繁茂」という言葉が出ますが、春山第一洞を含む目一ツ坊岩の山は人の来訪を拒むように、灌木や草木が被い茂っています。現在は近くまで簡単に行けますが、当時は雪浦の海岸部から歩いて行ったと報告しています。体力もさながらですが、強靱な精神をもたないと現地までは行けなかったでしょう。今更ながら感服してしまいます。

先人の築いた財産を大切に、これからも研究を続けて行かなければと再実感しましたし、今回の出来事で私は研究史の重要性を改めて知らされました…。

【註】

註1 八重津報告で写真撮影の担当は長崎醫科大學解剖學教室員の高谷重雄氏としている。

【引用・参考文献】

八重津輝勝 1924「肥前國雪ノ浦遺跡調査報告」『考古學雑誌』14 - 14 考古學會

内山芳郎 1924「西彼杵郡に於ける史蹟」『史蹟名勝天然記念物調査報告書』長崎縣史蹟名勝天然記念物調査委員會



写真1 春山第一洞（1924年撮影）



写真2 春山第一洞（2009年3月29日撮影）